

事業コード	H19-建-新-04		区 分	国庫補助	県単独
事業名	地方道路交付金事業費		部局課室名	建設交通部 道路課	
事業種別	一次改築(バイパス)		班 名	企画・高速道路班 (tel) 018-860-2485	
路線名等	(一)白岩角館線		担当課長名	加藤 修平	
箇所名	仙北市大威徳橋		担当者名	主幹兼班長 石山 良英	
総合計画との関連	政策コード	U	政 策 名	交流・連携と生活を支える交通基盤の整備	
	施策コード	04	施 策 名	地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備	
	指標コード	02	施策目標(指標)名	県道改良率	

1. 事業の概要

事業期間	H20 ~ H24 (5年)		総事業費	10.0億円	国庫補助率	5.5/10	
事業規模	延長L=780m、幅員W=6.0(11.0)m、(1.25-6.0-1.25-2.5)m 橋梁部L=190.0m、W=6.0(10.5)m						
事業の立案に至る背景	当該路線は、仙北市南部の沿道集落の通勤、通学、通院等の日常生活を支える重要な路線である。しかし幅員狭小(Wmin=5m)で急カーブ(Rmin=60m)が連続し歩道も無いことから、通学路指定路線及びバス路線であるにもかかわらず、歩行者や地域内交通の安全確保に支障をきたしている。また大威徳橋は昭和37年に架設後45年経過しており、コンクリートの劣化など機能の低下が著しい状態となっている。当該区間は玉川広域基幹河川改修事業区間にあり、橋梁の架け替えが必要となっていることから、河川改修事業と一体となり整備することで、生活道路としての日常機能と地域住民の安全性を早急に確保するため、新規箇所として要望するものである。						
事業目的	現況：交通量2,090台/日、大型車(混入率7.0%、交通量146台/日) 大型車のすれ違い困難箇所の解消(地域づくり支援) 通学路における児童の安全確保(安全な生活環境の確保) 地域住民、道路利用者の安全確保(事故率377件/億台km) 老朽化が進む橋梁の架替え(防災・危機管理の充実)						
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			全 体	H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度以降
	事業費		1,000,000	280,000	200,000	200,000	320,000
	経費 内訳	工事費	850,000	200,000	150,000	190,000	310,000
		用補費	100,000	60,000	40,000		
		その他	50,000	20,000	10,000	10,000	10,000
	財源 内訳	国庫補助	550,000	154,000	110,000	110,000	176,000
		県 債	427,000	119,000	85,000	85,000	138,000
その他							
一般財源		23,000	7,000	5,000	5,000	6,000	
事業内容		改良100,000 橋梁750,000 (内旧教撤去130,000)	用地測量 用地補償費 橋梁工	用地補償費 橋梁工	改良工 橋梁工	改良工 舗装工 橋梁工	
調査経緯	平成13年度 道路概略設計 平成17年度 橋梁詳細設計						
上位計画での位置付け	あきた21総合計画「第3期実施計画」における施策「地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備」を支援する事業						
関連プロジェクト等	玉川広域基幹河川改修事業 豊かな自然と特色のある歴史文化に彩られた交流・観光拠点の魅力向上 (あきた21総合計画「第3期実施計画」:大仙仙北地域)						
事業を取り巻く情勢の変化	幅員狭小で線形不良のため、交通事故が多発している(事故率377件/億台km) 玉川広域河川改修事業区間にあるため、橋梁の掛け替えが必要となっている。 大威徳橋は昭和37年に架設後45年経過しており、コンクリートの劣化など機能の低下が著しい状態となっている。						
事業効率把握の手法	指 標 名	道路改良率					
	指 標 式	改良率(改良済延長/実延長)					
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無		有 無	
	目標値 a	100 %		データ等の出典	道路現況調書 (秋田県建設交通部)		
	達成値 b	90 %					
	達成率 b/a	90 %		把握の時期	平成19年 4月		

2. 所管課の1次評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点			
必 要 性	仙北市南部の日常生活を支える道路であり、通学路指定路線にもなっているが、幅員狭小で線形不良のうえ歩道もないため、地域内の安全が確保されていない。 バス路線に指定されている生活道路であるが、交通事故が多発しており早急に改良する必要がある。(事故率377件/億台km) 河川改修事業区間にあり、橋梁の架け替えが必要となっている。	31点			
緊 急 性	通学路であるにもかかわらず、幅員狭小で歩道もなく通学児童が常に危険な状況にさらされているなど、地域住民の安全性を確保するため早急に整備する必要がある。 大威徳橋は昭和37年に架設後45年経過しており、コンクリートの劣化など機能の低下が著しい状態となっているため、早急に架替えする必要がある。	15点			
有 効 性	河川改修事業との同時着手により一体的な整備が可能であり、地域の防災性を確保することができる。 バス路線に指定されている生活道路として、冬期においても安全な交通が確保できる。	7点			
効 率 性	事業の費用便益比は1.35であり、有効性は高い。 ・総費用の現在価値 9.5億円 ・総便益の現在価値12.8億円 河川改修事業との合併施工により、約400百万円のコスト縮減となっている。	15点			
熟 度	平成15年に仙北市(角館町)から当地区の改良要望が出されている。	10点			
判 定	ランク () 判定ランクが であるが、当該区間は幅員狭小で線形不良のうえ歩道もなく、交通事故も多発していることから、歩行者及び地域内交通の安全を早急に確保する必要があるため、事業実施箇所としての優先度は高く、事業を実施すべきである。	78点			
総 合 評 価	<table border="1"> <tr> <td>選定</td> <td>改善して選定</td> <td>保留</td> </tr> </table> <p>評価結果から事業箇所としての優先度は高く、事業を実施すべきである。</p>	選定	改善して選定	保留	
選定	改善して選定	保留			

3. 総合政策課長の2次評価

総合評価	選定	改善して選定	保留
重要な生活道路であるが、幅員狭小で歩道もなく事故率も全県平均の約8倍と高いこと、事業区間内の橋は架設後45年経過し劣化が著しく、河川改修事業区間内でもあり早期の架替が必要ことから必要性和緊急性は高い。老朽橋については、保全計画上の優先性の整理が必要であるが、工期も5年と早期供用を考慮しており、以上から本事業の実施は妥当と判断される。			

4. 財政課長意見

意見内容	選定	改善して選定	保留
当該区間は幅員の狭小のほか、特に老朽化による橋梁の機能低下が見受けられることから緊急性が高く、当事業の実施は妥当と考える。			

5. 最終評価(新規箇所選定会議)

総合評価	選定	改善して選定	保留
事業の実施は妥当である。			

6. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業箇所を国に新規要望する。 ・事業実施にあたっては、コスト縮減等に努める。
--

7. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を「可」とする。

評価種別 新規箇所評価

事業コード(H19-建-新-04)

適用基準名 道路改築事業(地域間交流・連携促進)

箇所名 (仙北市大威徳橋)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	道路の現状の問題				
	道路構造上の欠陥箇所数	3箇所以上	17	17	2次改築事業については該当しない
	・車道幅員 < 5.5m	2箇所	12		
	・最小半径 < 100m	1箇所	7		
	・最急勾配 > 5%				
	・冬期堆雪巾なし	0箇所	0		
	道路環境上の欠陥該当項目	5件該当	18	14	2次改築は配点36点 2次改築は配点28点 2次改築は配点20点 2次改築は配点12点 2次改築は配点6点
	・現道の混雑度 1.0	4件該当	14		
	・現道の旅行速度 30km/h	3件該当	10		
	・現道の事故率 50件	2件該当	6		
・通学路指定で歩道なし	1件該当	3			
・重大交通事故が発生	該当項目なし	0			
計			35	31	
緊急性	道路をとりまく環境等				
	関連事業の有無	県の主要プロジェクト等に該当	5	5	
	・県の主要プロジェクト	地域振興プロジェクトに該当	3		
	・地域振興プロジェクト				
	・ほ場整備等の他事業	該当なし	0		
	市町村合併支援道路	位置づけあり	5		
	位置づけなし	0	0		
特有の課題の有無	あり	10	10		
老朽橋、災害危険箇所、冬期通行不能区間等	なし	0			
計			20	15	
有効性	道路の位置づけ				
	緊急輸送路	第1次輸送路	8		
		第2次輸送路	7		
		第3次輸送路	6		
		指定なし	0	0	
	秋田21総合計画	2施策以上該当	7	7	
	1施策該当	5			
計	該当なし	0	15	7	
効率性	事業の投資効果等				
	費用便益比(B/C)	1.0以上	10	10	
		1.0未満	0		
	計画交通量	5,000台/日以上	10	5	
		1,000台/日以上~5,000台/日未満	5		
	1,000台/日未満	0			
計			20	15	
熟度	地元の状況				
	地元ニーズ	文書要望あり	4	4	
		口頭要望あり	2		
		要望なし	0		
	地元の協力体制	地元の内諾	3	3	
		用地反対	0		
地元への方針説明	あり	3	3		
	なし	0			
計			10	10	
合計			100	78	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		